

経営比較分析表（平成29年度決算）

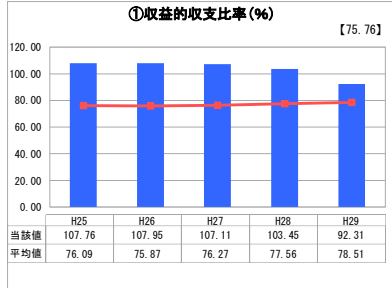
長野県 南牧村

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	水道事業	簡易水道事業	D3	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	該当数値なし	99.20	2,550	

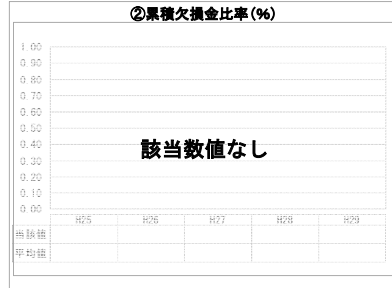
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
3,172	133.09	23.83
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
3,229	21.63	149.28

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 平成29年度全国平均

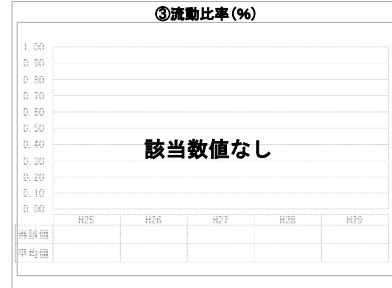
1. 経営の健全性・効率性



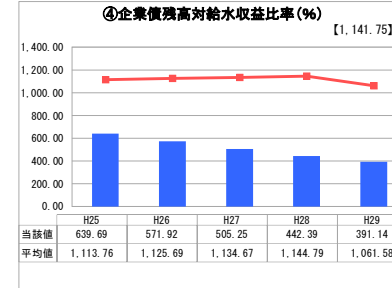
「単年度の収支」



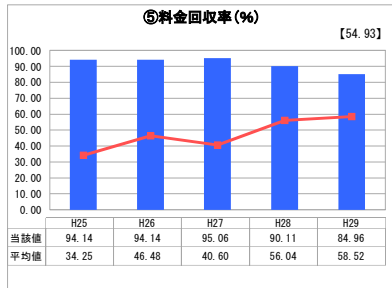
「累積欠損」



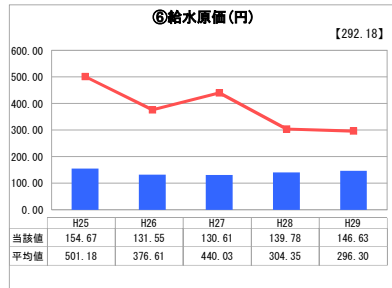
「支払能力」



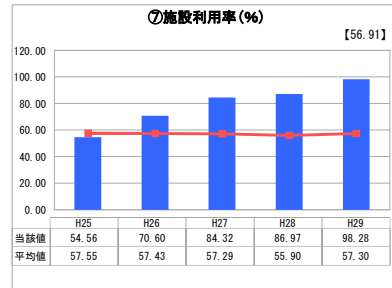
「債務残高」



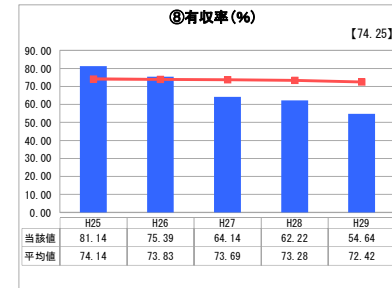
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

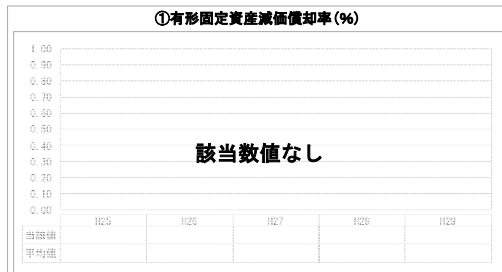


「施設の効率性」

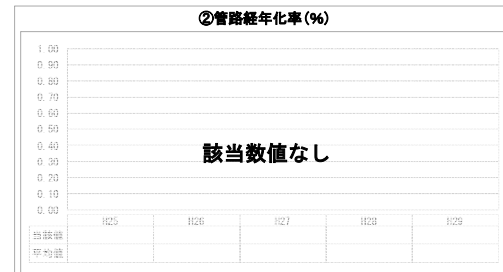


「供給した配水量の効率性」

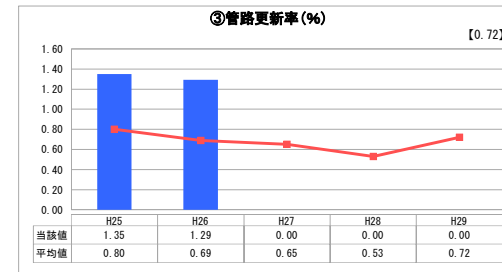
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①収益的収支比率は100%を下回り、健全経営とは言えない。
 昨年度と比較し、収益的収支比率の低下した要因としては、収益自体が減少したことに加え、費用面において、宿泊施設など季節により収入が安定せず水道料金の支払いが遅くなってしまいう使用者がおり、料金回収が滞ったことや、新規加入者の減少による総収益の低下に加え、水道管の老朽化による漏水の増加、それに伴う配水池の電気料金の増加、漏水調査の実施の他配水池監視システムの更新等の費用面での増加があったことによる。
 ④企業債務高対給水収益比率は減少傾向にあり、水道設備の老朽化等による更新により、企業債務高が増加する可能性もある。
 水道施設の老朽化による漏水は⑦施設利用率の増加や⑧有収率の低下も引き起こしていると考えられる。
 今後も管路の老朽化による漏水や水道事故の増加が増加する可能性がある為、計画的な水道施設の更新や料金回収率の増加が必要と考えられるが、大規模な工事を行うには一般会計からの繰り入れに頼らなければならず、現在行っているのは、道路改良に伴う布設替え工事や漏水による修繕工事に留まっている。

2. 老朽化の状況について

耐用年数を過ぎてしまった配水管が多く、漏水も目立ってきており、⑦施設利用率の増加や⑧有収率の低下を招いている。

全体総括

料金回収率の向上を図ると共に、水道施設の老朽化による漏水も目立ってきていることから計画的な水道施設の更新が必要である。現状、大規模な工事は一般会計からの繰り入れに頼らなければならず、道路改良に伴う布設替えや漏水等による修繕工事が行っていない。
 漏水調査や中長期的な水道設備を順次進めていき、健全経営を図っていく必要がある。

※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路更新率については、平成26年度の実績数を基に類似団体平均値を算出しています。